

〔資料〕

鞍馬寺所蔵 鞍馬寺融通念仏会再興関係資料

関口 静雄

【解題】

鞍馬弘教総本山鞍馬寺所蔵の融通念仏会再興関係資料を紹介する。いずれも卷子本で、「融通念佛會縁記書類四卷／鞍馬寺」と墨書された桐函に整理番号を付して納められている。以下の四点である。

- ・融通念仏再興縁起(二〇七一番。縦二七二・長二〇五㎞)
(奥) 享保丁酉二年五月十五日 東湖安養沙門湛堂慧淑敬撰
- ・融通念仏会規約(二〇七二番。縦二八〇・長一三一㎞)
(奥) 享保丁酉二年 鞍馬寺九院連署 會行事大蔵院明本
- ・融通念仏再興由来記(二〇七三番。縦二七八・長一一七三㎞)
(奥) 中川氏常宇謹誌
- ・中川常宇居士の疏(無番・書名なし。仮称。縦二七七㎞・長未計測)
(奥) 京城優婆塞中川氏常宇謹疏



右の資料が鞍馬寺に所蔵されていることは柴田六五郎氏『復澄禅和尚行状記^{上中下}』(昭和五七年一二月、南無山房)によって知った。このたび御寺宝の翻刻と写真掲載を御許可下さった鞍馬寺様に感謝奉る。

※

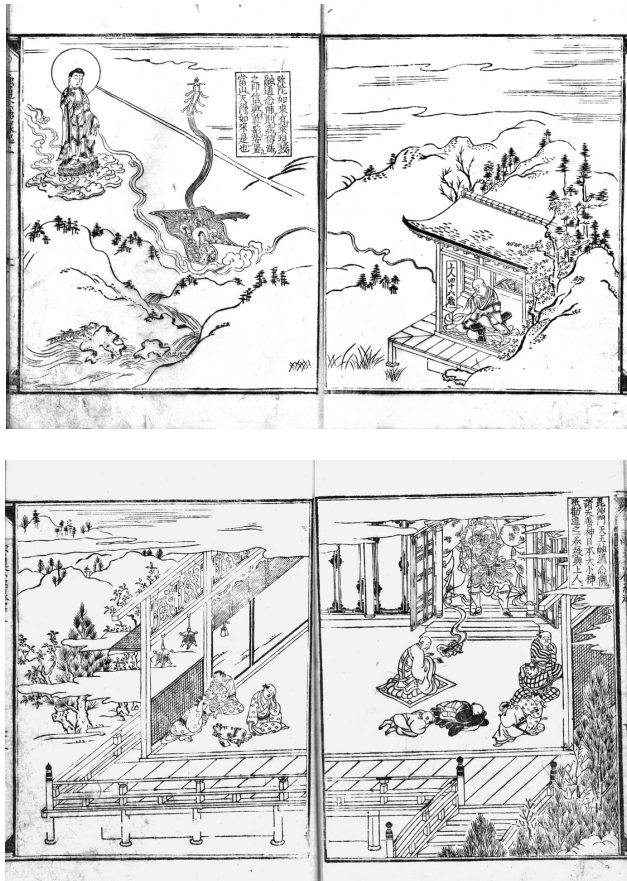
享保二年(一七一七)丁酉五月十五日、鞍馬寺で融通念仏会が再興された。その日は六百年前の永久五年(一一一七)丁酉五月十五日午刻、大原の良忍上人が阿弥陀仏から速疾往生・融通念仏の法門弥陀の妙偈と十一尊天得如来の白絹御影を直授されたと同月同日であった。この日は鞍馬寺大蔵院において一山九院の集会によって融通念仏再興会式が執行され、この会式を毎歳四月四日の恒例行事とすることが約定された。それは天治二年(一一二五)四月四日、鞍馬寺の毘沙門天王が諸天善神を勧進あって、その名を記した名帳一巻を良忍上人に授与されたと同じ月日を記念してのことであった。

鞍馬寺における融通念仏会の再興が成就したについては、会行事となった馬山大藏院明本と優婆塞中川常宇居士の尽力があった。常宇は篤信の念仏者で、正徳三年（一七一三）春より菩提寺たる伊勢松阪三縁山清光寺を拠点に山主善譽幡貞を發起主として十万人講念仏会を興し、江戸増上寺主祐天大僧正から賜った小字の名号札を印施して諸人勸化に精魂を傾けた。風潮は世に流行し、法縁を結び念仏百声を誓った衆庶は五十万人に及んだという。次いで常宇は鞍馬寺の融通念仏会の再興に心血を注ぐ。まず馬山伝統の一乗妙典如法写経会を再建し、享保元年春には自家秘蔵の『融通大念佛本縁起』（二巻。詞書青蓮院道円親王・画土佐古将監光信）を二度までも今上中御門天皇の叡覧に供して天皇はじめ准母承秋門院の入会を得ると、翌二年正月十五日大源山大念仏寺忍通とともに馬山に参詣して毘沙門天王の鴻恩を謝し、十院の集会に旨趣を演説して一山僧衆の入会同心を得、鞍馬寺融通念仏会の古風再興を成就したのだった。

常宇（一七二四没）は勢州松阪を本貫とする豪商中川家の三代目清三郎で、同地の豪商三井家の一族であった。三井北家初代高利（法名宗寿）は中川家初代浄安の長女かね（寿讚）を娶り、二人の五女みか（寿嶺。一六七九-一七二四）は常宇に嫁いだ。しかし常宇・常立兄弟は家業を忘れて仏道に入り、ことに常宇は江州日野の木食澄禅に帰依して妻・一女とともに出家し、洛東聖護院門前に構えた培蓮居なる自邸に仏殿を造作して莊嚴し、また松阪の清光寺を拠点に催した十万人講や、鞍馬寺の融通念仏会再興に莫大の施財をして家業を傾けたから、三井家から商人失格の烙印を捺された人物であった。北家二代高平（宗竺）の遺言状には家業を忘れた常宇と常立を義絶した旨の記述があり、また北家三代高房（崇清）が大町人の栄華とその没落を書き留めた『町人考見録』に常宇兄弟の所業を詳述し、先祖の冥加を忘れ、心のままにふるまったゆえの天罰であると強い非難を記している。

しかし広く仏教文化史の視点から中川常宇の行実を見れば、常宇の果たした功績は特筆されてしかるべきものと思われる。そしてまた常宇の行実の背景には木食彈誓の再来という木食澄禅や当代一流の律匠と称された湛堂慧淑があったことは忘れてはなるまい。馬山大藏院において融通念仏再

興会式が始行されたその翌日には、常宇は山また山を越えて大原古知谷阿弥陀寺山上の澄禅を詣してこれを報告し、随喜感歎した澄禅からかつて空鉢仙人より付与されたという持蓮華一茎を授けられたのである。また慧淑は『鞍馬寺融通念佛會再興縁起』に満山十院の入会と記しているが、『中興融通念佛會規約』は九院の連署であって一院を欠いている。異議も存したのである。おそらく天台所立の馬山が大源山下に置かれるやも知れぬと危惧を抱いたのであろう。そうした異議を封ずるためにも持戒持律を實踐して衆庶の尊崇を集める木食澄禅や安養寺湛堂慧淑の後援が必須であったものと考えられる。それについては別に述べたい。なお資料の翻刻にあたっては可能なかぎり原文の表記を尊重した。



☆(上) 永久五年五月十五日午刻、阿弥陀仏来現して良忍に妙偈と十一尊天得如

来の御影を授く。(『融通大念佛縁起』上巻)

☆(下) 天治二年四月四日、良忍鞍馬寺通夜の時、毘沙門天王、諸天善神勧進の名帳一卷を良忍に授与す。(同)

鞍馬寺融通念佛會再興緣起
 原夫融通念佛會昉於大原山良忍
 上人融通念佛者廻我所唱融會衆
 人衆人之唱又通于我是也其功踰
 于獨稱者萬萬耳何者衆生無邊故
 上人於永久丁酉五年五月十五日
 感阿彌陀佛親授此訣又鞍馬寺毘
 沙門天王令諸天善神皆入其會誓
 護同舟於是普勸四部逮於
 鳥羽上皇與皇后入會德風之被翁
 然化之至今既六百載事雖未息較
 古甚微京兆中川常宇居士常以為



〔翻刻〕



鞍馬寺融通念佛會再興緣起

原夫融通念佛會昉於大原山良忍

上人融通念佛者廻我所唱融會衆

人衆人之唱又通于我是也其功踰

于獨稱者萬萬耳何者衆生無邊故

上人於永久丁酉五年五月十五日

感阿彌陀佛親授此訣又鞍馬寺毘

沙門天王令諸天善神皆入其會誓

護同舟於是普勸四部逮於

鳥羽上皇與皇后入會德風之被翁

然化之至今既六百載事雖未息較

古甚微京兆中川常宇居士常以為

古甚微。京兆中川常守居士常以為
慊切欲再興竊謂以古料今若非有
高貴人入會其化及物必不普廣由
是詣鞍馬寺乞天王冥祐者有年矣
心願不虛至去年丙申果有
今上皇帝及國母承秋門院入會下
至庶人莫不霑益今春正月十一日
居士詣鞍馬恭謝其恩歡喜雨淚不
覺失聲既而又謂古者此山衆僧皆
入會念佛自利利人而在今時不復
聞焉若有合志復其古風利益何淺
鮮也遂發願復祈之天王將歸訪法
印明本於山内大藏院具陳如此且
曰某多年詣此山素非祈已福報其
所冀者唯是此而已每晤法印未嘗

レ慊ミト切ニ欲ス再興ヲ竊ニ謂ク以レテ古ヘヲ料レレ今ヲ若シ非レハ有ルニ

高貴人ノ入會シ玉フコト其化ノ及レフ物ニ必不ト普廣ナラデ

是レニ詣テ鞍馬寺ニ乞フハ天王ノ冥祐者有レリ年矣

心願不虛至去年丙申果有

今上皇帝及國母承秋門院入會

至庶人莫不霑益今春正月十一日

居士詣鞍馬恭謝其恩歡喜雨淚不

覺失聲既而又謂古者此山衆僧皆

入會念佛自利利人而在今時不復

聞焉若有合志復其古風利益何淺

鮮也遂發願復祈之天王將歸訪法

印明本於山内大藏院具陳如此且

曰某多年詣此山素非祈已福報其

所冀者唯是此而已每晤法印未嘗

所冀者唯是此而已每晤法印未嘗
談及而今果其所冀故不得復默若
其於此山挽回古風則在諸院至合
志用力耳法印聞之潛然無所答良
久乃言予先師盛純前住當院專心
利濟於善勇為嘗謂本山昔有如法
寫妙經融通大念佛兩會今廢經久
若欲再興責在我儕於是先建寫經
會已成次欲啓融通會未果而沒予
雖不肖常以繼述為懷今聞居士所
語啐啄相合非天王靈被而何予激
發本山衆僧共成此事則庶幾不止
扶居士大志亦得償先師遺願耳翌
日居士與大源山大念佛寺主忍通
上人相晤於洛之寓居因告以昨日

談シ及_レ而今果_ニ其所_ヲ冀_フ故_ニ不得_レ復_ク默_ス若_{キハ}

其_ノ於_テ此_ノ山_ニ挽回_ス古_ノ風_ヲ則_ニ在_ニ諸_ノ院_ニ至_ニ合_ス

志_ヲ用_ル力_ニ耳_ヲ法_印聞_ク之_ニ潛_ラ然_ト無_ク所_ヲ答_{フル}良

久_シテ乃_チ言_ク予_カ先_師盛_純前_ニ住_ス當_院專_ニ心_ヲ

利_濟於_テ善_ニ勇_ニ為_ス嘗_テ謂_フ本_山昔_シ有_ニ如_法

寫_ノ妙_ノ經_ヲ融_通大_ノ念_佛兩_ノ會_ヲ今_ニ廢_シテ經_ヲ久_キテ

若_シ欲_セ再_興責_メ在_ニ我_カ儕_ニ於_テ是_ニ先_ツ建_テ寫_ノ經_ヲ

會_ニ已_ニ成_ル次_ニ欲_シテ啓_{ント}融_通會_ヲ未_ダ果_ステ果_サ而_モ沒_ス予

雖_レ不_肖常_ニ以_テ繼_述為_レ懷_ト今_ニ聞_ク居_士所_ノ言_ヲ

語_ヲ啐_啄相_ニ合_ス非_ニ天_王靈_被而_モ何_ゾ予_ヲ激_ス

發_シテ本_山衆_僧共_ニ成_サハ此事_ヲ則_チ庶_{クハ}幾_{クハ}不_止

扶_クルノ居士_ノ大_志亦_レ得_ル償_フコト先_師ノ遺_願ヲ耳_ヲ翌

日_ニ居_士與_テ大_源山_ノ大_念佛_寺主_忍通

上_人相_ニ晤_ス於_テ洛_ノ之_ニ寓_居因_テ告_ルニ以_テ之_ヲ昨日_ノ

上人相晤於浴之寓居因告以昨日
事上人驚曰予亦昨詣鞍馬而其心
中所念與居士冥符如有所約二人
相喜以為奇特大源山在攝之平野
益昔大原初祖開化諸州各有遺跡
此山亦其隨一而今梵刹猶盛上人
賜紫住持揚其法化凡有入會者則
授以其信所謂淨業印符者也三月
十八日居士復詣鞍馬偶值十子院
主集會皆聞居士素願隨喜讚嘆便
入其會誓欲自行化佗與山川同其
悠久十院主者福生院香海圓光院
賢冲妙壽院仙空瑞照院秀興寶積
院慈忠吉祥院實雄月性院證寂大
藏院明本歡喜院文啓戒光院賢道

事ト上人驚テ曰予モ亦昨詣鞍馬ニ而其心

中ノ所念與居士ニ冥符スルコト如シ有所約スル二人

相喜テ以為奇特ト大源山ハ在リ攝ノ之平野ニ

益昔シ大原ノ初祖開化ヲ諸州ニ各有リ遺跡ニ

此山亦其隨一ニシテ而今梵刹猶盛ナリ上人

賜_レ紫ヲ住持シ揚_ク其法化_ニ凡_レ有_レ入會者則

授_クルニ以_テ其ノ信_ヲ所謂淨業印符ト云モ也三月

十八日居士復_クヒ詣_ク鞍馬ニ偶_ニ值_クニ十子院

主ノ集會ニ皆聞_ク居士ノ素願_ヲ隨喜讚嘆シテ便

入_リ其ノ會ニ誓_テ欲_ス自行化佗與_ニ山川_ニ同_ク其

悠久_ト十院主_ハ者福生院香海圓光院

賢冲妙壽院仙空瑞照院秀興寶積

院慈忠吉祥院實雄月性院證寂大

藏院明本歡喜院文啓戒光院賢道

藏院明本歡喜院文啓戒先院賢道
 也居士多得其同志益勇於利佗更
 欲隨處出其印符令入會者徧於朝
 野遂得大源山主之許從事于此舊
 有融通念佛和詞緣起相傳而其中
 未免有繁略居士因為加刪補新編
 一卷布之噫居士之志可謂勤矣仲
 夏初余應居士齋瞻靈芝所現毘沙
 門天王像乃是居士所感者也其當
 此時感得是靈像豈亦偶然哉居士
 以其所願皆得滿足不禁歡躍請余
 文以記其由勒之赤金永鎮鞍馬凡
 來詣者讀之知有其事則誰不希欲
 其入會哉果有希欲者應於十子院
 隨謁其一從院主受印符誓期每日

也居士多^ク得^テ其^ノ同志^ヲ益勇^ニ於利佗^ニ更^ニ
 欲^ス隨^レ處^ニ出^シ其^ノ印符^ヲ令^メ入會^ノ者^ヲ徧^ニ於朝
 野^ニ遂^ニ得^テ大源山主^ノ之許^ヲ從^フ事^ト于^コ此^ニ舊^ト
 有^テ融通念佛和詞緣起^一相傳^フ而^シ其^ノ中^カ
 未^ダ免^レ有^ル繁略^一居士因^テ為^ニ加^ヘ刪補^ラ新編^ニ
 一^一卷^一布^ク之^ヲ噫^ア居士^ノ之志^ヲ可^シ謂^ク勤^ク矣^仲
 夏^ノ初^メ余^メ應^ニ居士^ノ齋^ニ瞻^ル靈芝^ニ所現^ル毘沙
 門天王^ノ像^ヲ乃^チ是^レ居士^ノ所感^ノ者^ノナリ^也其^レ當^ニ
 此^ノ時^ニ感^得是^ノ靈像^ヲ亦^タ偶然^ナ哉^{居士}
 以^テ其^ノ所願^皆得^テ滿足^スル^{コト}不^レ禁^ヘ歡躍^ニ請^フ余^ニ
 文^ヲ以^テ記^シ其^ノ由^ヲ勒^シ之^ヲ赤金^ニ永鎮^ス鞍馬^ニ凡^ソ
 來詣^ノ者^ヲ讀^メ之^ヲ知^ラ有^ル其^ノ事^ト則^チ誰^カ不^レ希^ム欲^セ
 其^ノ入會^ヲ哉^果有^ル希欲^一者^ヲ應^ニ於^テ十子院^ニ
 隨謁^シ其^ノ一^ニ從^テ院主^ニ受^ケ印符^ヲ誓^フ期^ヲ每日

隨認其一從院主受印符誓期每日
念佛百聲盡未來際永無退轉若謝
以物毫亦不許但以決誓猛信報之
可也功德之利普及一切同生樂土
證大善提是居士再興之志也

肯

享保丁酉二年五月十五日

東湖安養沙門湛堂慧淑敬撰



念佛百聲_ヲ盡_メ未來際_ヲ永無_ク退轉_上若_{キハ}謝_{スルニ}

以_レスルカ物_ヲ毫_モ亦_タ不_レ許_サ但以_テ決誓猛信_ヲ報_レセハ之_ヲ

可_{ナリ}也功德之利普及_ク及_{キシ}一切_ニ同_ク生_{シテ}樂土_ニ

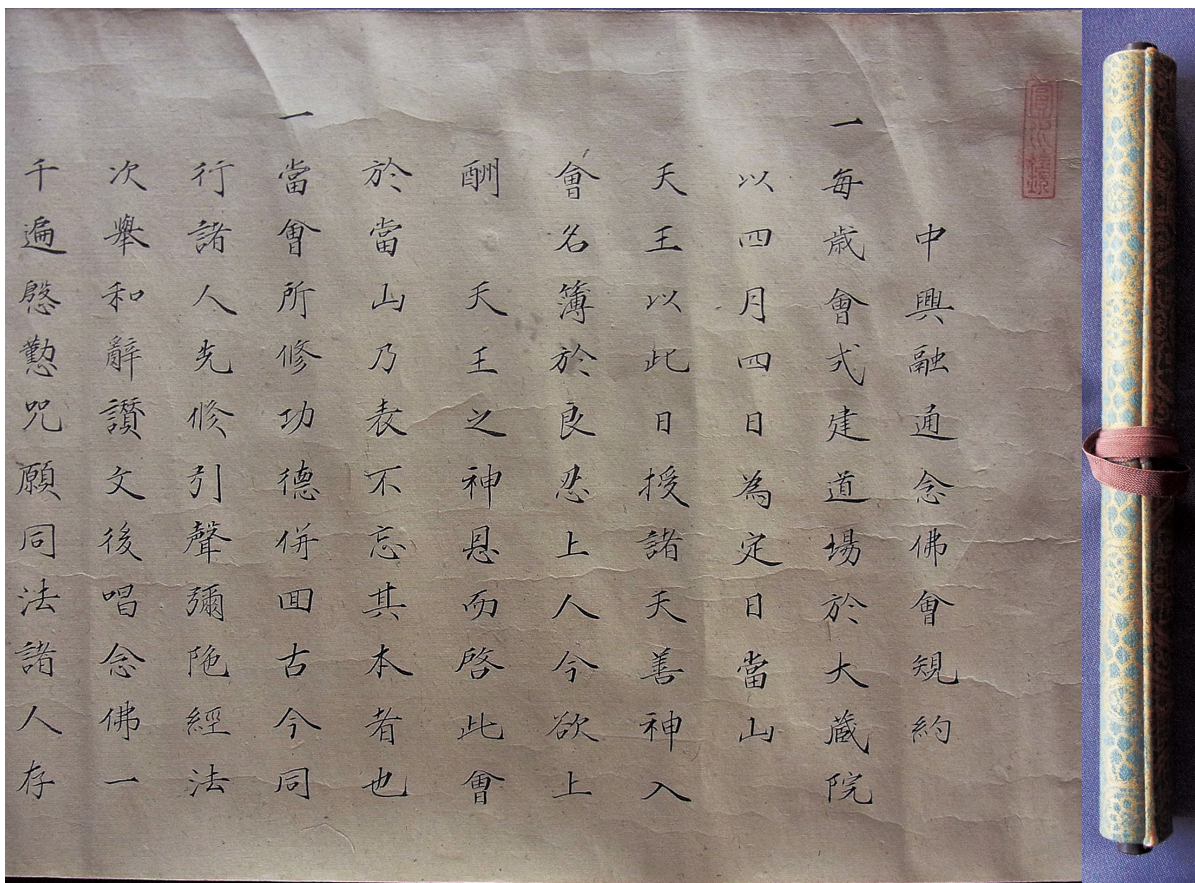
證_{セン}大善提_ヲ是_レ居士再興_ノ之志_{ナリ}也

肯

享保丁酉二年五月十五日

東湖安養沙門湛堂慧淑敬撰





〔翻刻2〕

〔圓水鏡〕

中興融通念佛會規約

一每歲會式建道場於大藏院

以四月四日為定日當山

天王以此日授諸天善神入

會名簿於良忍上人今欲上

酬 天王之神恩而啓此會

於當山乃表不忘其本者也

一當會所修功德併回古今同

行諸人先修引聲彌陀經法

次舉和辭讚文後唱念佛一

千遍懺懃咒願同法諸人存

千遍慇懃咒願同法諸人存
者福樂消災信力堅固亡者
離苦超昇增進菩提寄言後
來莫妄增損規法矣
一每會唱舉樓門水器所鑄漢
和記文以令隨喜諸人知一
會中興之始末勿厭勞煩略
定規矣
一當日齋饌不得盛美兼禁飲
酒雜話等一切非法之事
一自行不立則何能及化佗合
山僧衆一其志願策勵信行
而後宜祈融通勝行流通萬

者福樂消災信力堅固亡者
離苦超昇增進菩提寄言後
來莫妄增損規法矣
一每會唱舉樓門水器所鑄漢
和記文以令隨喜諸人知一
會中興之始末勿厭勞煩略
定規矣
一當日齋饌不得盛美兼禁飲
酒雜話等一切非法之事
一自行不立則何能及化佗合
山僧衆一其志願策勵信行
而後宜祈融通勝行流通萬

而後宜祈融通勝行流通萬
國一切衆生同生淨土也若
其不信放逸濫廁法會者不
啻違背願主中興之善心抑
又孤負 天王平生覆護之
大恩者也

右五條

享保丁酉二年

鞍馬寺

福生院執行法印香海

月性院權別當法印賢冲

妙壽院仙空

寶積院慈忠

國一切衆生同生淨土也若

其不信放逸濫廁法會者不

啻違背願主中興之善心抑

又孤負 天王平生覆護之

大恩者也

右五條

享保丁酉二年

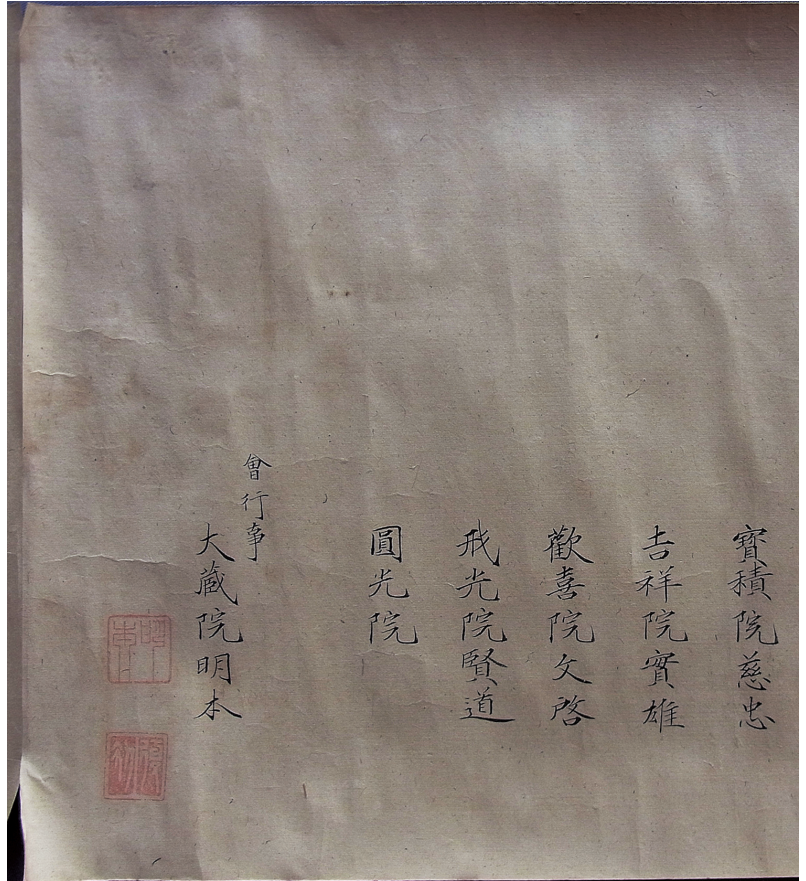
鞍馬寺

福生院執行法印香海

月性院權別當法印賢冲

妙壽院仙空

寶積院慈忠



寶積院慈忠

吉祥院實雄

歡喜院文啓

戒光院賢道

圓光院

會行事

大藏院明本



吉祥院實雄

歡喜院文啓

戒光院賢道

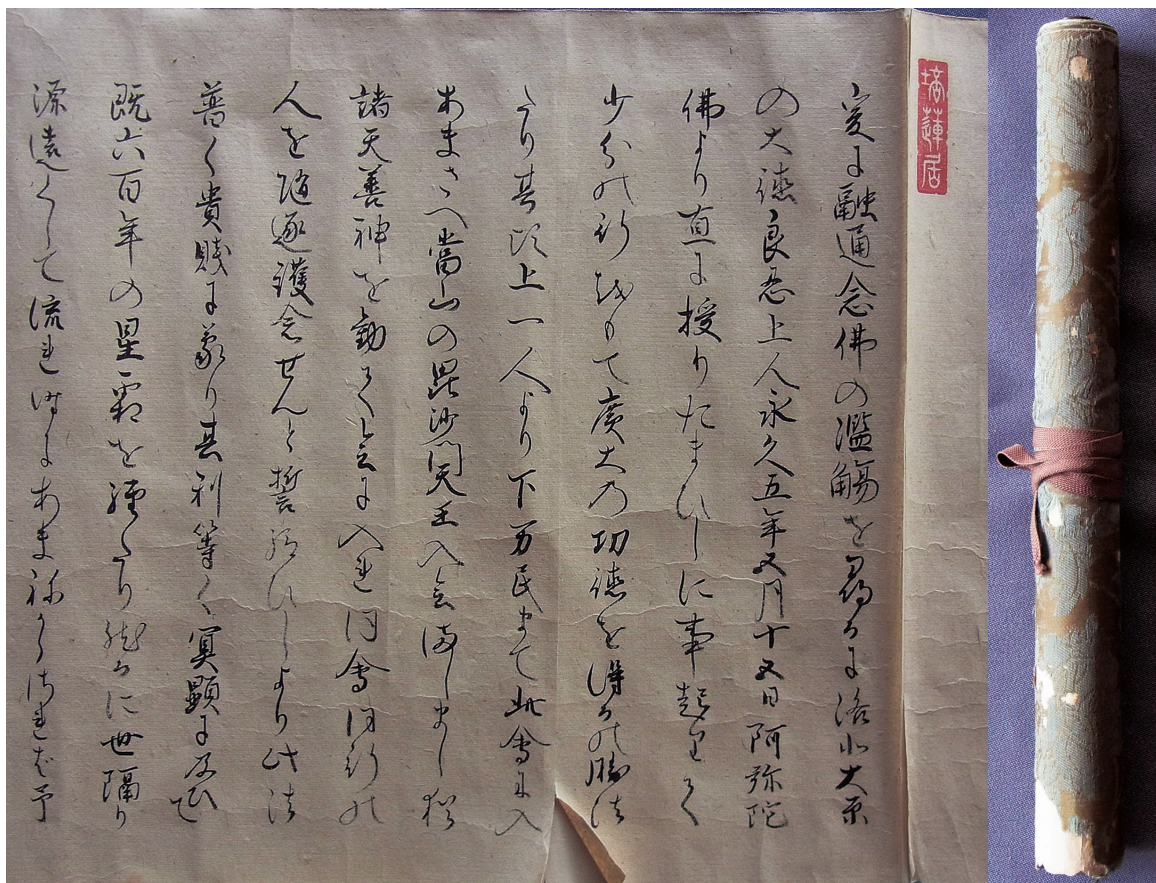
圓光院

會行事

大藏院明本

本明

印



〔翻刻3〕

培蓮居

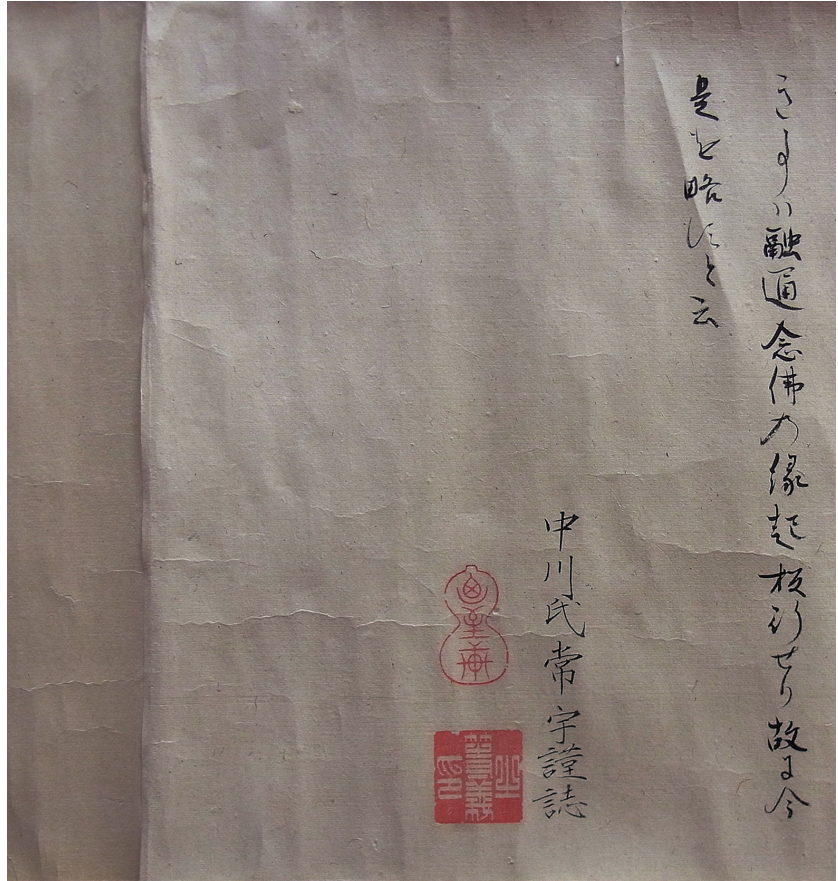
爰に融通念佛の濫觴を尋るに洛北大原
 の大徳良忍上人永久五年五月十五日阿弥陀
 佛より直に授りたまひしに事起りて
 少分の行をもて廣大の功德を得るの勝法
 たり其頃上一人より下方民まで此會に入
 あまさへ當山の毘沙門天王入会ましまし猶
 諸天善神を勧て会に入れ同會同行の
 人を随逐護念せんと誓給ひしより此法
 普く貴賤に蒙り其利等く冥顯に及ひて
 既六百年の星霜を經たり然るに世隔り
 源遠くして流れ時にあまねからされば予

源遠くして流きけりよあま福くちきむ予
おほけなき心願を發せり上一人を始奉りて
道俗貴賤并當山の僧衆悉同心入会し夫
より廣く諸國に傳へて等しく出離の門に
おもむかしめたまへと此幾年か當山天王の
御前に祈り奉りしが過し丙申の年かの願
如意満足しわきて當山の僧衆隨處常な
らず廣く諸方にをよぼし遠く萬代に傳へ
ん事を祈願せらるれば當山參詣の諸人
をして其趣をしらしむる方便を思ひまうけて
け水鉢を安置し手にむすぶ水のしるべに
此記をよみて不可思議の功德とあり入会
志を發さしめんと乞願ふものなり依て有

源遠くして流きけりよあま福くちきむ予
おほけなき心願を發せり上一人を始奉りて
道俗貴賤并當山の僧衆悉同心入会し夫
より廣く諸國に傳へて等しく出離の門に
おもむかしめたまへと此幾年か當山天王の
御前に祈り奉りしが過し丙申の年かの願
如意満足しわきて當山の僧衆隨處常な
らず廣く諸方にをよぼし遠く萬代に傳へ
ん事を祈願せらるれば當山參詣の諸人
をして其趣をしらしむる方便を思ひまうけて
け水鉢を安置し手にむすぶ水のしるべに
此記をよみて不可思議の功德をしり入会
志を發さしめんと乞願ふものなり依て有

志と致さず先んとい彩ふりけり候て有
 信の人よ告奉り入會れ志ありむ人も當ふ
 の内何れ院にもあれ立入て其志を述べ
 入會の日より日課の念佛百遍を誓ひ浄業
 の印符を受たまへ又一切の願あらん人は
 先此會に入て其願成就せば日課念佛の数を
 増んと誓べし先たつ父母眷属のためにて
 入會し或は他人を勧ても入しめ現には廣
 大の徳本をうへ冥には天王の御心にも叶ひた
 まへ但此會に入人一紙一錢の報謝の財を
 出す事を用ひ若さむむる人あらば是
 皆法を賣りて世を渡る人としるべし猶委
 き事は融通念佛の縁起板行せり故に今

信の人に告奉る入會の志あらむ人は當山
 の内何れの院にもあれ立入て其志を述べ
 入會の日より日課の念佛百遍を誓ひ浄業
 の印符を受たまへ又一切の願あらん人は
 先此會に入て其願成就せば日課念佛の数を
 増んと誓べし先たつ父母眷属のために代て
 入會し或は他人を勧ても入しめ現には廣
 大の徳本をうへ冥には天王の御心にも叶ひた
 まへ但此會に入人一紙一錢の報謝の財を
 出す事を用す若さもすむる人あらば是
 皆法を賣りて世を渡る人としるべし猶委
 き事は融通念佛の縁起板行せり故に今



是を略すと云

中川氏常字謹誌

印
印



培蓮居

惟每歲四月初四日就洛北鞍馬寺
大藏院啓建融通念佛道場恭清梵
宇謹備供儀諷誦東流之真詮稱揚
西方之洪名者右伏以釋尊八萬
之教法權實各投其機彌陀六八
之誓願凡聖齊蒙其益本邦永久之
間大原良忍上人感得融通勝行其
澤及于幽顯遂感當山多聞天王勸
誘諸天善神令入此會良以西方往
生之勝行末代出離之徑路此會一
啓其益無窮是故幽冥同喜致有此

〔翻刻4〕

培蓮居

惟レ每歲四月初四日就テ洛北鞍馬寺
大藏院ニ啓ニ建テ融通念佛ノ道場ヲ恭ク清メ梵
宇ヲ謹テ備ヘ供儀ヲ諷ニ誦シ東流ノ之真詮ヲ稱ニ揚ス
西方ノ之洪名ヲ者右伏シテ以ミレハ 釋尊八萬ノ
之教法ハ權實各投ニストモ 其機ニ 彌陀六八
之誓願ノミ凡聖齊シク蒙ル 其益ニ本邦永久之
間ヲ大原ノ良忍上人感得シ玉イ 融通ノ勝行ヲ其
澤及フ于幽顯ニ遂ニ感テ當山ノ多聞天王勸ニ
誘シテ諸天善神ヲ令上レ入ニ此會ニ良トニ以ミレハ 西方往
生之勝行ハ末代出離之徑路此會一クヒ
啓ケテ其益無レシ窮リ是ノ故ニ幽冥同ク喜致テ有ニルコトヲ此ノ

啓其益無窮是故幽冥同喜致有此
神應有志出離者誰不喜過于此際
哉然中古來其法漸微唱之甚希矣
弟子立分外之大志致默禱於天王
享保丙申之夏果得如願於茲融通
勝行復遍于世嗚乎自非天王大威
神力爭得區々寸丹立此大功今欲
奉酬神德恭啓此會於本山伏願此
行永傳天下万世誘導一切衆生行
業互融功德莫窮古今同行存亾諸
人同生九品蓮會之中又願弟子平
世所修念佛諸善其功不虛速生上
品還入穢國親近天王勸誘一切悉
趣淨土往還無窮化々不絶唯恐凡

神應一有志ニ出離^ニ者誰^レ不喜^ハ過^ニ于此際^ニ

哉然^ルニ中古ヨリ來^ク其ノ法漸微^ニ唱^ルコト之ヲ甚^ク希^クナリ矣

弟子立^テ分外ノ大志^ヲ致^ス默禱^ス於天王^ニ

享保丙申之夏果^{シテ}得^{タリ}如^ク願^フ於茲^ニ融通^ス

勝行復^ク遍^シ于世^ニ嗚乎自^レ非^ス天王ノ大威

神力^ニ争^カ得^ル區々^ク寸丹立^ルコト此ノ大功^ヲ今欲^{シテ}

奉^レ酬^フ神德^ニ恭^ク啓^ク此ノ會^ヲ於^テ本山^ニ伏^{シテ}願^クハ此ノ

行永^ク傳^フ天下万世^ニ誘^フ導^ス一切衆生^ヲ行

業互^ニ融^{シテ}功德莫^レ窮^ル古今同行存亾^ノ諸

人同^ク生^ス九品蓮會^{之中}又願^ク弟子平

世所修念佛諸善其功不^レ虛速^ニ生^シ上

品還^ニ入^{シテ}穢國^ニ親^シ近^シ天王^ニ勸^{シテ}誘^フ一切悉^ク

趣^ニ淨土^ニ往^シ還^ス無^ク窮^リ化々不^レ絶^ト唯恐^ル凡

趣淨土往還無窮化々不絶唯恐凡
心易移障縁最多伏冀三寶諸天覆
護弟子不起虚假輕慢等心永令不
失今日之志更願子孫世々永為此
會檀越即今所定會式費用如數喜
捨歳々無怠慈悲正直而歸依三寶
富饒壽考而不耽世樂營修善事得
自在力乃至信根堅固竟生淨土若
有兒孫不守弟子之志者加天王之
威力速改其志若不肯改者永離祖
宗之家志趣不多直伸寸丹伏願一
切三寶別當山大天王俯賜昭鑑謹
疏

心易移リ障縁最モ多シテ冀クハ三寶諸天覆

護シテ弟子ヲ不起_レ虚假輕慢等ノ心ヲ永ク令_レ玉ヘ不_レラ

レ失_レ今日之志_ニ更_ニ願_クハ子孫世々永ク為_レリ此

會ノ檀越_ト即_チ今_マ所_ノ定_ル會式費用如_レ數ノ喜

捨_シ歳々無_レ怠_ルト慈悲正直_ニシテ而_テ歸_ニ依_シ三寶_ニ

富饒壽考_ニシテ而_レ耽_レ世樂營修_スルニ善事ヲ得_ニ

自在力_一乃至信根堅固_ニシテ竟_ニ生_シ淨土_ニ若_シ

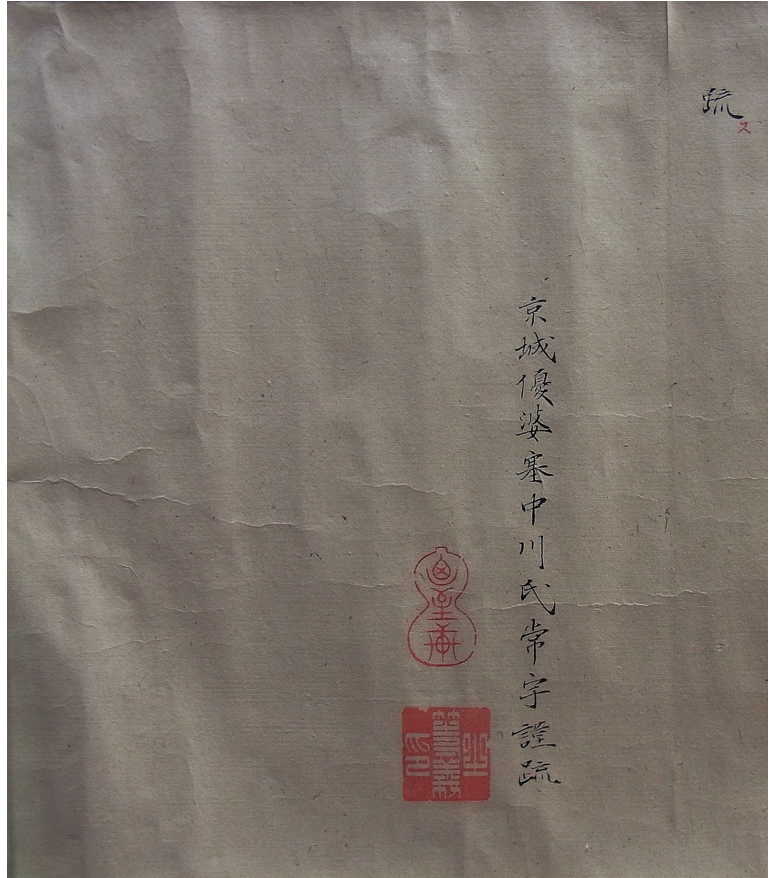
有_下ハ兒孫不_レ守_テ弟子_ノカ_レ之志_一者_ノ加_ヘテ天王_ノ之

威力_一速_ニ改_メ其志_一若_シ不_レ肯_テ改_メ者_ノハ永_ク離_レメ_下祖

宗_ノ之家_ニ志趣不_レ多_ク直_ニ伸_テ寸丹_一伏願_クハ一

切_ニ三寶別當_一山ノ大天王俯賜_ヘ昭鑑_一謹_テ

疏_ス



京城優婆塞中川氏常字謹疏

印
印

(せきぐち しずお 歴史文化学科)